

## 教職員の自己評価に対する第三者評価(学外委員からの評価および提言)

### ① 自己評価全般について

- (1)学校の現状について大きく全体としてとらえて見た場合、学習指導、部活動、生徒募集、進路実績など、概ねよい方向に進んでいると考えてよいと考える。
- (2)近年、多くの優秀な先生方の採用とIT化が進んできたが、より充実したカリキュラムの編成に合わせて再びリソース不足が目立ち始めている。今後は、そのリソースの確保とともに、生徒一人一人の自主性を高めるような活動も必要と考える。
- (3)教員の自己評価の中で、「教員間の連携」についての評価がかなり低い。また昨年度よりそのポイントが下がっていることが気になる点である。
- (4)教員の自己評価の中で気になる点が「授業改善」である。昨年度よりも13ポイント下がっている。様々な業務が忙しく、なかなか授業改善に対する努力ができていないと感じている教員が多いのではないかと想像する。学校のシステムとして、授業改善に関する取り組みを検討する必要があると思われる。
- (5)校長から評価委員会の場で教員のコミュニケーション不足が報告されたが、われわれ大人は意識して行動しないと変わらないと思う。次年度は積極的に教員間で交流をはかってもらいたい。

### ①教育方針・目標について

- (1)国公立難関校を目指す層から、就職や専門学校を目指す層、そして部活動で活躍することを主たる目的意識として考えている層まで、様々な層の生徒を大切にするという目標は、少子化の厳しい状況下において、本校にとっては、最大の特色であると考えられる。しかしながら、それを本当に実現するためには、教職員の大変な努力が求められるところであり、ぜひ教職員の働き方について、私学ならではの工夫をしてもらいたい。
- (2)また上記の目標を達成するためには、各コースの特色をより明確にすべきであり、その議論をより進めるべきである。
- (3)探究学習等の指導において、大学との連携をより進めることが必要と思われる。県立大学との連携を柱にしながらも、より幅広い連携が今後必要と考えられる。

### ② 進路について

- (1)今春卒業した生徒の成績はよくないため、そろそろ自前で補習するのも限界がきているのかなと思う。国公立大の数と同様に、関西学院大と甲南大の合格者も伸び悩んでいるのも気になる。一方で、京都産業大や神戸女学院大など、サンデー毎日の合格ランキングで上位に入ったことはうれしい限りである。

(2)以前の東洋大姫路高校と違うのは、進路指導部長が中心となって進路指導体制が機能しているため、学校全体で最後まで面倒を見ようという教員の意識が上がっているように思う。これは素晴らしいことで評価したい。国公立大の合格実績が過去最高を更新する見込みとのことで、進学校化がより進んだことはうれしく思う。

### ③ キャリア・フロンティアや探究について

(1)探究学習等の指導において、大学との連携をより進めることが必要と思われる。県立大学との連携を柱にしながらも、より幅広い連携が今後必要と考えられる。

(2)中高一貫校が始まって以来のキャリア・フロンティアを軸に、社会で活躍することが出来る人材を育成することが、長期的な発展につながると考えている。そのためにも、キャリア・フロンティアが与える影響についての相関関係を具体的に示すことを検討していただきたい。

### ④ 生徒指導について

(1)生徒指導については、基本方針がぶれずに3つの目標について、検証方法まで確立されており、素晴らしいことであると思った。ただ、校則がまだまだ厳しいのかなと思われる部分もあったので、今の時代にあった校則を生徒会と相談しながら、変える時期がきていると思われる。

(2)近隣の公立高校で、校則を撤廃したり、服装を自由化したりといった大きな流れがみられる。そうした流れに単純に乗ることがよいとは思わないが、「生徒に考えさせる生徒指導」の在り方について、研究をしてもらいたい。

### ⑤ 広報活動について

(1)募集面では高校が好調を維持できていることは、中長期的にみて学校経営が安定するため、広報部長が取り組まれている SNS 戦略と、地道な塾営業、さらに中学営業にも力をいれ、引き続き好調を維持してもらいたい。

(2)中学募集については、今のままでは成績上位は獲得できても、ボリュームゾーンの成績中位層がとれなくなる可能性がある。ここは全教職員が地域への働きかけや、ボランティア活動にも積極的にに関わり、教員 1 人が毎年 1 名ずつ紹介をもらうなど、地道な活動が必要かと思われる。

(3)昨年度のコメントでも触れたことであるが、学校の魅力発信のための広報活動の中で、生徒の学校に対する愛着を育て、探究学習の一環として進めることもよいのではないかと考える。学校の魅力発信について前向きな生徒の力を活用する方法を検討してもらいたい。

⑥ グローバル化に向けての対応について

- (1) いよいよ中国人留学生の受け入れが始まるとのことで、生徒は留学生との交流によって国際感覚が身に付き、学校としても授業料収入のアップで経営の安定化と、対外的に留学生の受け入れがグローバルな高校としてのイメージアップでプラスに作用するため、これまで以上に持続可能な発展が期待される。さらに大学進学実績アップにも繋がるため、メリットしかないと思われる。
- (2) 学校のグローバル化は避けられないと思う。「考えるを学ぶ」という教育方針は、新しい時代に必要な人材像にも重なる。
- (3) 中国からの留学生受け入れを始めるという方針であったが、この点についても、実績を積んでいくことは非常に意味のあることであると考えている。